向陽新聞
高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　森田　隆博
発行人　加藤　栴文
印刷　高知印刷
創立40周年記念号

高橋寫眞館
高知市京町北通
TEL ②6758

創立四十周年を迎う

多彩な文化祭

記念行事今日幕開け

大正九年、川崎、宇田両氏の御意によって、人材輩出の大願を掲げて創立された本校も、この十一月十八日を以って、創立四十周年の大慶を迎えた。これに当って学校は勿論、各部が挙ってその準備を急いでいたがその様子を探ぐってみると、まず文化部が初めてここに日頃の研究の成果を披瀝することになった。

この展示会には十八、十九、二十日の三日間があてられており、内容を見てみると、生物部の貝類標本、それに中山先生所蔵の逸品数点を加える採集物の展示、物理部の校長先生の指導されるところの放射能測定報告や、人間の「錯角」についての研究発表などからはじまって、新聞部の「向陽新聞の出来るまで」、全国高等学校新聞コンクール、それに学習研究社提供による教育映画の上映、また放送、物理両部によるラジオに関する研究、文芸部の雑誌「筆山」の歴史、華道部員の生花展、美術部のモダンアート展、映画部の映画上映等々様々で、また変ったところでは、同人俳句会「カッパ会」の俳句の発表、化学部の希望者による実験サーヴイス、生物部の解剖実習、放送部の古老の歌や土佐の方言の集録などあって、多彩を極めている。

また中二日置いて、二十二日には招待野球とハンドボール試合があり、二十七日には舞踊部、演劇部ブラスバンド部共演の芸能発表会が予定されている。

一方学校側は、校長をはじめとして「四十周年記念誌」を発刊するために、力を入れている。特にこれには今度の文化祭の模様も集録しようというので、各分担を定め新聞部、文芸部、その他の部員が、取材、校正などに一役買うことになっている。

ところで今度のような催しは学校、生徒共に初めてのことでありそのはりきり具合にも拘らず多少不安がられるむきもあるが、日頃の部活動状態を表示すると同時に勉学以外の面における本校生の姿をみんなの前に明示するものとしてその成果が注目されている。

記念行事の一環として
講演と音楽会
いずれも本校先輩が担当

四十周年記念行事の一環として十一月十九、二十日、講演と音楽会が開かれる。科学方面講演の講師は北岡龍海氏、文学方面の講師は岡村弘氏。また音楽会の方は、独唱は土岐信吉氏、クワルテットは深瀬岩造氏（他に三名）で、いずれも本校の先輩である。次に四人の紹介をしてみよう。

○…北岡龍海氏は本校五回生で東大医学部物理学科卒業後、気象庁に入られ、現在、高層気象課長。演題は「高層大気の話」で気象に関係する地上五十キロメートル以下の大気層の状態、運動の模様、観測の方法、これらの役割について。また、人工衛星や惑星による研究対象になっている、宇宙空間のことにもふれられる予定。「土佐中時代では自分自ら進んで勉強してゆくという学風や気風が充実していたことが最も印象深い思い出だ。

世間が勤評騒ぎで少なくとも生徒のためには時間が空費されている時、こういった騒ぎの圏外で勉強できる十佐中、高の生徒は幸福だと思う。最近六大学野球で十佐高出の選手が、割合多く活躍しているのを見て、頼もしく思った。このようにあらゆる方面で自分の全力を傾注してやる人達が多くてのを希望している。我らの敬愛する曽我部先輩を校長に迎え、真面目なよい人柄と熱意で運営されているであろう十佐高校は幸せであろうと思っている。」と思い出や、現在の十佐高に対する希望をのべられた。

○…岡村弘氏は、本校第一回生、高知高校を経て東大ドイツ文学科を卒業、各地で教鞭をとられ、現在神戸大学文学部教授。専攻はドイツ文学、特にフランツ・カフカの文学で「城」など数冊を飜訳されている。また、倉本氏衛の筆名で小説も書かれ、小説集「雲と夜桜」などがある。講演には、一回生として十佐中学の神代の時代の思い出話をされる。今後の十佐高については、「あまり十佐という土地にこだわらず、日本の十佐高校になってほしい。大学進学のための予備校にならないよう、どこまでも十佐高校独自の気風を発揚して、自由満達な校風を樹立してほしい。とにかく、特色ある私学になってもらいたい」と希望をのべられた。

○…土岐信吉氏は、本名を信吉孝和といい、本校二十八回卒業生。横浜市立大学を経て、現在、藤原歌劇団研究生として活躍しておられ、ヤマハ新人推薦演奏会にも出演された。渡辺高之助、畑中良輔奥田良三、小船幸次郎、斉藤達雄の各氏に師事。

当日の演奏曲目は、

A　日本歌曲―日本の笛（平井康三郎作曲）より三曲。

B　イタリア民謡―オーソレミオ、遥かなるサンタルチア、純愛その他。

C　歌劇のアリア―妙なる調和（トスカより）セレナーデ（学生皇子より）その他。

なお、伴奏は森木洋子氏。

十佐高時代の思い出については「私達は男女共学での最初の生徒だったわけですが、その当時としては、割にうまくいった方でしたと語られた。

本校は創立以来はやくも四十年この矢のような四十年でも、本校にとっては変化に富んだ苦難と希望の多い長い月日でした。しかしこの苦難の四十年間も校長先生をはじめ諸先生、父兄先輩の方々、そして私たち生徒の不断の努力により立派に乗りこえて来ました。そして、希望に燃えさらに無限の前進を続けようとしています。このよき日を皆んなで祝いたいと思います。

今後もこの強い協力で創立の精神と伝統を守り、より楽しい学びの学園として行きましょう。

また一方生徒会においても、生徒委員会を中心にして全生徒の自主的な協力と先輩の良き指導と共に、諸先生方の暖かい御理解のもとに自由に活発に本来の目的を一歩一歩力強く踏みしめています。

今後も私たち生徒自身の協力で与えられた自治権を守り活用し、なお一層の前進を続けて行こうと思います。

創立四十周年に思う

高校生徒会委員長　藤田至誠

四国四県
私学研修会開かる

十月十六、十七、十八日の三日間にわたって、四国四県の私立中高の先生方二百八十八人が集まって私学研究会が行なわれ、四部門（国語、数学、英語、音楽）にわかれて熱心な研究討議がされた。

第一日目は、国語（学芸高）数学（十佐高）英語（高知学園）音楽（十佐女子高）の実地授業を二時間参観したのち、その批評や研究発表会が行なわれた。第二日目は高知学園で総会を行なったのち、日本私立中高連理事長の小野光洋先生と教育大学教授の大塚先生の講演があり、各部門の研究討議を行なった。第三日目は、各部門の結果報告ののち総会を行い三日間の幕を閉じた。

土佐高はなごやか
高知学園と交換会

十月十二日、本校生徒委員会主催で、高知学園との間に授業交換が行われた。今度の会は初めての試みで、本校から生徒委員十名が高知学園で、また本校では高知学園生徒十名（内それぞれ女子四名）がそれぞれの学年にわかれて一日の授業を受けた。この後両校委員によって懇談会がもたれたが、西野教頭の挨拶から校歌合唱で終るまで終始なごやかに行われた。

まず土佐校での印象については「学校全体になごやかな雰囲気がある」「皆よく予習をしていて驚いた」と答え「教師も実に熱心に授業している。高知学園では教師の中で生徒に対してひいきをする者がいるが、土佐高ではそれが見られない」と語し、また売店については「パンを買おうとして出られなくなった」と苦笑しながら「高知学園ではうどんを売っている。これは生徒が手伝っているが手伝った者はいくらかの手当を出している。それでも土佐と比べるとほとんどの品が高い」と少々残念そう。また運動会の組合せについて本校の現状を説明すると「私の方では各クラスを赤白に分けているので、そんな問題は起りません」と答えてから「それも毎年々々するわけではなく、校舎落成式がある時など削られてしまいます」と話していた。

一方本校から、高知学園で授業をうけて帰った、ある生徒に聞くと「高知学園と云っても、本校とさして変っているようには思えないが、たゞ一つ、規律正しいことには好感が持てた」と語っていた。

委員長は、今後もこのような会を持ちたいと話した。

生徒会に協力を

しょう、我々の知る所では大した変化はないようです。とするとこれまで本校生徒会は最近ずっと堕落したままであることになります。思うに、「生徒会は役員に任しておけ」なんて考えが十佐高生の伝統となってしまったよ数しか集まらない時があって、成司、ビオラ田尻彰夫、セロ小笠原洋三の各氏。

○…以前の騒々しかった時代に比べて、現在は全く平和といってよいくらいです。騒々しかった時代の生徒会は、ほんのちょっとした事でも大層な事をやらかしたように考え、実際以上に活躍したように思われます。

○…生徒会とは、生徒諸君の協力なくしては、成り立たないのです。諸君が生徒会を活発にさせることは十佐高までをも輝やかせることになるのです。この際、役員諸君に奮えてもらうと同時に我々十佐高生一同そろってこれに同調しようではありませんか。（T・K）

数学後任に

武中敏夫氏　高校へ転任なさった数学担当の池田先生の後任として去る十月、武中敏夫先生をお迎えした。先生は高知市出身で、東京工業大学に学び電気関係の仕事に従事していらっしゃったが病気のため帰郷静養なさって、めでたく全快したので本校着任のはこびとなった。

本校への御感想は「皆んなが明かるく元気で向学心にもえている私の理想は明かるく楽しい勉強であるが、本校生徒はこの理想にぴったりだ」と語られた。

美術部・写真部
県展に大活躍

美術の秋もいよいよ深まっている折柄、去る十月廿四日から十一月八日まで県民ホールで開かれた県展に、本校の美術部、写真部が大いに活躍した。まず洋画では高崎元尚先生の「ユーモレスク」（推薦）高一の鍵本紀子さんの「春の朝」高一の寺谷静穂さんの「閑寂」高二の山崎京子さんの「作品」（褒状）。写真では、高三の沢村良勝君の「エトランゼ」高三の竹邑正三君の「橋」高三の種田基能君の「風景」と「雪の日」そして高崎先生の「人間喜劇」（推薦）がある。また、本校の先輩である開徳倫子さん、柳原睦夫氏なども活躍していた。

高崎先生の話　このような高校生の大量入選はめずらしい。本校の美術活動の水準が非常に高くなったのを嬉しく思う。本校の先輩もよく活動してくれているから、在校生も敗けないようにがんばって、今後もアマチュアとして活躍してもらいたい。

記念祭参加番組
教育映画上映

主催　向陽新聞
後援　向陽クラブ

【日時】十八日、十九日、二十日
【上映時間】三巻約四十分
【内容】「注文の多い料理店」「メダカの観察」「カニの誕生」
【場所】本校
（なお詳細は当日表示致します）

内容は小、中学生を主対象とするものです。この企画を通じ、今一度自然の深遠な摂理を興深くおぼえられることを信じ、ここに多数の御観覧を希望致します。

当新聞部は十八日から幕開けした四十周年記念祭参加番組の一つとして教育映画を上映します。

生徒会だより

四十周年記念誌発行
出版は年内に

学校当局では今四十周年記念誌出版の準備を着々と整えている。これは今度の文化祭、発表会の収録をはじめとして本校四十年の沿革その他をつゞったもの。

教頭先生の話によると、発行は年内になる予定だが遅くとも高三至業までには出版するそうで、百五十―二百ページくらいのものになるらしく、表紙の図案は全校生徒から募るという。また出版後は生徒各家庭、学校関係者、来賓者に無料で配布される。

らくがき

▼本校が創立されてから四十年になるという。四十年たったからといって急にえらくなる訳でもないけれど、妙に嬉しいものです。もちろん四十年の歴史の〝長さ〟そのものはさほど誇ることができないかも知れないけれども、その歴史そのもの―私立校としての迂余曲折の行程―は誰にも誇り得るものです。▼そこで本校も世間なみに創立四十周年記念文化祭となるわけですが〝始終執念祈念噴火祭〟というわけで日ごろの力ンズメ式授業のうっぷんをはらそうなどという人はいませんか？〝バカナこというな〟ですって、いやこれは失礼しました。▼ちょっと話が高尚になりますが、我々の頭脳はいつも〝興奮〟と〝制止〟との二つの作用がデリケートにからみ合っているとのことです―即ちその二つの作用をうまく調節する人がいわゆる皆さんの様な人―〝頭の良い〟人というそうな。▼ところで今月は一日の運動会を皮切りに〝興奮〟させられる材料が豊富に揃っています。特に高二は修学旅行などもあって、十一月は一週間そこそこしか授業がありません。これは我々学問に志ざす者にとっては、甚だ遺憾とするところであります。（ウソつけ！）。そこで、興奮している間もいつも〝自分は学生である〟という現実を忘れてはいけません。学生の本分は○○にありますから。▼しかし、つらつら思んみるに本校では普段個性を発揮できる機会というものは極めてまれで、文化部は殆んど〝趣味の集い〟となっているようです。そういう意味で今度の文化祭は、本校先輩の立派な学者の講演もあるそうで国語科担当のなにがし先生のよくいわれる〝人間形成〟という面で非常に有意義である、と思われます。また何よりもかけがえのない自分の個性を見つめるよい機会でもあるでしょう。▼ともあれ、この文化祭が有意義に盛大に行われるか否かは、我々生徒自身にかゝっているわけで、有意義にすることは我々の権利であり義務でもあるのです。▼蛇足ながら、理想はあくまで高く良いのですが、いつも自分の足もとを見きわめていかなければなりません。

大志遠望／脚は大地に、眼は蒼天／（H・M）

土佐高生徒部指定店
万年堂
割引券は生徒部にあり
土電会舘三階　万年筆売り場南側

6月，12月の ボーナスでテレビ
京町 穂積電気商会
高知市京町　TEL ②6646

Kochi Ichino Teihyo
SUSI HA
KIKU-ZUSI
DAIMARU NISIGUTI

健皮美 康病容 膚 相談　季節の変りめに
つちばし薬局
高知市新京町大劇東側角　TEL② 5876 9685

日本毛織 リファインテックス 専売店
高級服地を進学進級に
毛織物なら絶対折目はのきません
株式会社 丸賀洋服店
（信用を重んじて営業する店 服だけは信用ある店で）
高知市京町31
TEL②3370

樂しい学生生活の記録を
あなたのアルバムに残しましょう
カメラはキタムラ
堺町19　TEL②3154〜6

学生鞄・旅行用鞄
袋物の
マエダ鞄店
高知市帯屋町18
TEL②8600・8601

座談会

本校の伝統は失なわれたか そして今後の歩むべき道

1959, 11, 10 夜
新宿「ムサシノ」にて

〔東京支局〕　私たちの土佐中学・土佐高校はどのような精神的背景のもとに創立され、今日まで続いてきたか。そしてそこに生じてきた問題、またこれから生じようとする問題は何か―これは本校に学ぶ私たちがぜひとも考えてみなければならないことだ。新聞部では創立四十周年にあたって「伝統は失なわれたか、そして今後の歩むべき道」と題して、先輩およびもと本校教諭をお招きして座談会を開催した。私たちはこの問題をどのように受けとってゆけばよいのだろうか…。（支局側＝森木、吉川、国見）

官学排せきの創立精神
自主独立を重んじた初代校長

写真は一人おいて右から梶さん、近藤氏、須賀氏、森下さん、岩谷氏。

岩谷　「伝統は失なわれたか―そして今後の歩らべき道」というのが新聞部から与えられたテーマですが、まず土佐中学・土佐高校の伝統とはどういうものであるかというような点から考えてみなければならないと思います。そこで、きょうの集りの中ではいちばん古い至善生の近藤さんから。

近藤　これは今から十年まえの創立三十周年記念式典に同窓会東京支部を代表して参列したときのことですが、私は壇上からこんな話をした。当時は終戦直後の教育改革によって学区制や統合などが行なわれ、県立の高校は新しい制度のもとにおかれて、戦前の県立中学校の伝統が失なわれてしまった。このような伝統の断絶ということは学校教育にとって非常なマイナスだ。その点、君たちはじつに幸福ではないか。三十年にわたる有形無形の伝統を受けついでいるのだから…と、まアこんな話をしたわけです。

須賀　そこなんです。伝統というものは容易にたちきれるものじゃない。土地と住民との関係、これが伝統だ。それを不自然な形でたちいってしまったのは官学的思想がおおっていたためで、官命には盲目的に服従するという気持があったからです。その点、土佐中は私学であり、政府ではなく直接に土佐人の気質を受けついできていると思うんです。だから良い意味での土佐人の気質をすてずに、外部の圧力に左右されることなく、自己独特のものをもつことができるんですよ。この独自の精神を失なってはだめですね。土佐人の特質を生かした教育を行なう、というのが土佐中の特色なんだから…

近藤　これは戦時中のことだが、土佐中学の県立移管論、つまり私立土佐中学を県立にするという問題が起きたことがある。これは一県会議員が「土佐中学のあり方はあまりにぜいたくである。これを県民に開放せよ」と発言したのに対し、知事が「考慮する」と答えたことに端を発する。しかしこれは県の教育政策としてはまったく浅薄な考えであって、理事長の川島正件氏をはじめ他の理事の諸先生も正面から反対された。そしてこれによって、かえって母校愛をあおられた同窓会や教員が伝統の断絶を排するために立ちあがることになったんです。

須賀　ほう、そういうことがあったんですか。戦時中に、そのようにして伝統を守り得たということは大したものです。ぼくのいう土佐人の守ってゆくべき気質とは、まさにそういうことなんです。私は日光の近くの鹿沼（かぬま＝栃木県）の出身なんだけれど、土佐へ渡るようになった理由はこうです。東京外語大学の英文科を卒業するときに三根円次郎校長（土佐中学初代校長）に会った。「どうだ、土佐へ行かんか。わしは土佐へ新しい学校をつくる」というんです。新しい学校とは、官学に反対した、独得の学風をもった学校ということです。そもそも三根校長という人は官学に大反対なんだ官学はダメだとして排せきしていた。それで新潟県立高等学校長に任命されたのをことわって、土佐へやってきた。そのころ土佐といえば、島流しにされる土地のような感じでしたから（笑）。三根校長は哲学者だけに深くものごとを考えていて、私立でなければダメだという信念があった。「日本にもオックスフォード、ケンブリッジが生まれなだめだ！」と言っていた。つまりオックスフォード、ケンブリッジ両大学のような私学の精神にあふれ、しかも土佐人独得の気風にみちた学校をつくってゆこうとした。私はこのような三根校長の意気にホダされて、土佐中へ行ったわけです。三根校長は徹底した自由主義者で、当時の軍国主義に反抗して自由の学府をうちたてようとしていた。私に言わせれば三根校長を殺したのは軍人だ。二人の配属将校が三根校長の反軍国主義精神に憤慨して校長官舎へ乗りこみ、夜明けの四時まで談論を吹きかけた。死去したのはそれから一日おいてのちです。おもしろいことに、三根校長が死ぬ前まで読んでいた本が机の上にあったが、これがなんとマルクスですよ。とにかく、三根校長が主張したことは「自学自主」ということと「独立独行」ということです。

近藤　だから学校の授業にしても生徒の自習ということに重きをおいた。各教官には辞書や参考書がたくさん備えつけられていて、生徒たちはそれを使って勉強したわけです。須賀先生、ほかの学校へかわられて、こんな指導方法をとることができましたか？

須賀　できない。なぜかというとそれだけの参考書を備えつけてないし、もしあったとしても土佐中のような選ばれた優秀な生徒ではないから、できないんですよ。私が土佐中で英語を教えたときには五十分授業のうち三十五分程度は生徒たちの自習したところだけ進んだことになる。だから授業はどんどん進み、一年間で二年分の教科書をすませました。

（写真は高一の「よわり目たゝりぶりにのぞませた青空の下で、恒例の運動会が開かれた。

○…この日、雨でたゝられのびのびとなって五月目、運動場のコンディションはまず良好、高二の修学旅行を翌日に控えてその疲労が危ぶまれて委員会もプログラム編成に一苦労、その上高校、中学の合同運動会の意義を持たせようと激論の末、平岡先生案を採用してけり。それでも初めてとられたクラス別の五色に分かれて終日熱戦が繰りひろげられた。

新方式の運動会
五色に分かれて熱戦展開

○…晩秋の色濃くなった五日久しぶりにのぞませた青空の下で、恒目」）

〃〃〃〃〃 他校トピックス

別府商高新聞から拾った話題を一つ。

先生十七人に行ったアンケートの中で〃十代の時に何になりたいと思いましか〃の問に「先生になりたく思っていました」と答えた方はタッタ四名、他は雄大な夢をえがき夢破れた先生ばかり。はたして本校先生の答えは。

伝統の理解にズレが

岩谷　いまお二人から創立時代の生き生きした精神や状況をお聞きして血がおどるような感じですがそうした躍動するような精神が、今はまったく失なわれてしまっているわけです。ここのところに土佐中の伝統の当面している問題があると思います。今うかがったような脈脈とした創立の精神がいつのまにか忘れ去られてしまって、その代りに残っているのが、「本校は優秀な学校である」という概念だけです。なぜ本校が優秀であるかということの内容がいつのまにか変わってしまっている。つまり優秀大学への合格者が多くなりさえすればそれで優秀でありそれが本校の伝統だという、死んだ力ラばかりにこびりついている感じです。これが伝統ということを考える場合、現在の母校の最大の問題だと思います。

近藤　三根校長は当時の小人数の生徒たちの中の大きな存在であったわけですが、その後大量教育になってからは万冏がきまらなくなってしまった。そのためには従来のような校長中心の教育法というものをあらためて、先生たちが近代私学的な指導方法を研究してゆかなければならぬということを、問題も研究してもらわねば困る。

岩谷　その通りなんです。創立当初の精神が失なわれたのは、少数教育から大量教育に移行するさいに、その脈脈たる精神を現代に受けついでゆくことができるだけの教育方法の転換がなされなかったことにあると思う。

近藤　終戦後は校舎を建てることばかりに力がそそがれて、教育内容については全然検討がなされなかったではないか。伝統はあるのだから質の良い生徒は入ってくるのだが、それに対する教育方法がまったくとられなかった。

梶　ですから私たちの在学時代は私はずっと主張しつづけてきました。それが、なかなか受けいれてもらえない。こういう時代になってきているんですから、もうすこし科学的な教育技術というような問題も研究してもらわねば困る。

岩谷　その通りなんです。創立当初の精神が失なわれたのは、少数教育から大量教育に移行するさいに、その脈脈たる精神を現代に受けついでゆくことができるだけの教育方法の転換がなされなかったことにあると思う。

須賀　進学指導の方法にもいろいろあるが、私がいたころの土佐中の授業は要するに生徒の個性を中心にしたもので、やはりこの方法がすぐれていると思う。たとえ大学入試に一回失敗しても、あとのびがきくのです。土佐高も優秀な生徒を集めているのだから自学自習によって独自の長所を掘りさげていくような教育方法をとったらよいと思います。

梶　もともと女子の志望者が少ないんですよ。私の場合なども女子

人間関係に重点を

森下　在学中よく「人材の育成」ということを聞かされましたが、現代において人材というものは人と人とのつながりにおいてつくられるものだと思います。だから今の土佐中・高では、生徒相互や先生と生徒の間における人間関係にもとづいてリーダーをつくるような教育をすることが、進学の精神から言っても必要になっているんではないでしょうか。

中城　ところが今の母校では人間関係ということがまったく除外されて、いわば問題集中心の教育が行なわれているにすぎない。

近藤　問題集中心の教育を受けた人間と、人間関係中心の教育を受けた人間とでは、そりゃー社会に出てから〃のび〃がちがってきますね。

須賀　大切なのは自分の地位じゃなくて、社会に貢献するということです。そのためには〃人をつくる〃という教育が必要になってくる。有名な教育学者のデューイが自分の大学の学生について「本学には **educate**（教育）されるものが多いが、**culture**（教養を身につける）者は少ない」と言っていますが、まったくです。

梶　そのへんで結論として言いたいことは、土佐中・土佐高は私学であることをもっと活用して独自な生き方をしてほしい。政治的な干渉もはねつけることができるのだから、自分の学校の教育という問題を深く考察し、進学よりもまず人間形成を重点的に考えていただきたい。先生がたもこれに応じた教育法―たとえばカウンセラーをもうけることとかをぜひとも検討して、実行に移していただきたいと思います。

近藤　私の言いたいのはそれなんです。いわゆるガイダンスのことで、校内に身上相談所をつくるようにしたらどうでしょう。とくに生徒が自分の才能に疑問をもったようなとき、積極的に相談相手になってやるような施設や準備が必要だ。

進学指導は大きな見地から
先生はもっと勉強してほしい

近藤　母校も曽我部さんを校長に迎えたことによって、土佐中精神の現代的復興が行われるとをわれわれは心から期待している。

岩谷　曽我部先生は土佐中第一回の卒業生であるし、その点では今まで話してきたような土佐中精神を体で感じ、それを持っておられると思う。校舎もでき、しかも創立四十周年を迎えたいま、この校長を迎えているということは、開校精神の復興の舞台もでき、いよいよ主役の一人が登場したということだ。新しい学校とは、官学に反対した、独得の学風をもった学校ということです。そもそも三根校長という人は官学に大反対なんだ官学はダメだとして排せきしていた。それで新潟県立高等学校長に任命されたのをことわって、土佐へやってきた。そのころ土佐といえば、島流しにされる土地のような感じでしたから（笑）。三根校長は哲学者だけに深くものごとを考えていて、私立でなければダメだという信念があった。「日本にもオックスフォード、ケンブリッジが生まれなだめだ！」と言っていた。つまりオックスフォード、ケンブリッジ両大学のような私学の精神にあふれ、しかも土佐人独得の気風にみちた学校をつくってゆこうとした。私はこのような三根校長の意気にホダされて、土佐中へ行ったわけです。三根校長は徹底した自由主義者で、当時の軍国主義に反抗して自由の学府をうちたてようとしていた。私に言わせれば三根校長を殺したのは軍人だ。二人の配属将校が三根校長の反軍国主義精神に憤慨して校長官舎へ乗りこみ、夜明けの四時まで談論を吹きかけた。死去したのはそれから一日おいてのちです。おもしろいことに、三根校長が死ぬ前まで読んでいた本が机の上にあったが、これがなんとマルクスですよ。とにかく、三根校長が主張したことは「自学自主」ということと「独立独行」ということです。

近藤　だから学校の授業にしても生徒の自習ということに重きをおいた。各教官には辞書や参考書がたくさん備えつけられていて、生徒たちはそれを使って勉強したわけです。須賀先生、ほかの学校へかわられて、こんな指導方法をとることができましたか？

須賀　できない。なぜかというとそれだけの参考書を備えつけてないし、もしあったとしても土佐中のような選ばれた優秀な生徒ではないから、できないんですよ。私が土佐中で英語を教えたときには五十分授業のうち三十五分程度は生徒たちの自習したところだけ進んだことになる。だから授業はどんどん進み、一年間で二年分の教科書をすませました。

○…晩秋の色濃くなった五日久しぶりにのぞませた青空の下で、恒例の運動会が開かれた。

○…この日、雨でたゝられのびのびとなって五月目、運動場のコンディションはまず良好、高二の修学旅行を翌日に控えてその疲労が危ぶまれて委員会もプログラム編成に一苦労、その上高校、中学の合同運動会の意義を持たせようと激論の末、平岡先生案を採用してけり。それでも初めてとられたクラス別の五色に分かれて終日熱戦が繰りひろげられた。

新方式の運動会
五色に分かれて熱戦展開

○…晩秋の色濃くなった五日久しぶりにのぞませた青空の下で、恒目」）

〃〃〃〃〃 他校トピックス

別府商高新聞から拾った話題を一つ。

先生十七人に行ったアンケートの中で〃十代の時に何になりたいと思いましか〃の問に「先生になりたく思っていました」と答えた方はタッタ四名、他は雄大な夢をえがき夢破れた先生ばかり。はたして本校先生の答えは。

岩谷　いまお二人から創立時代の生き生きした精神や状況をお聞きして血がおどるような感じですがそうした躍動するような精神が、今はまったく失なわれてしまっているわけです。ここのところに土佐中の伝統の当面している問題があると思います。今うかがったような脈脈とした創立の精神がいつのまにか忘れ去られてしまって、その代りに残っているのが、「本校は優秀な学校である」という概念だけです。なぜ本校が優秀であるかということの内容がいつのまにか変わってしまっている。つまり優秀大学への合格者が多くなりさえすればそれで優秀でありそれが本校の伝統だという、死んだ力ラばかりにこびりついている感じです。これが伝統ということを考える場合、現在の母校の最大の問題だと思います。

近藤　三根校長は当時の小人数の生徒たちの中の大きな存在であったわけですが、その後大量教育になってからは万冏がきまらなくなってしまった。そのためには従来のような校長中心の教育法というものをあらためて、先生たちが近代私学的な指導方法を研究してゆかなければならぬということを、問題も研究してもらわねば困る。

岩谷　その通りなんです。創立当初の精神が失なわれたのは、少数教育から大量教育に移行するさいに、その脈脈たる精神を現代に受けついでゆくことができるだけの教育方法の転換がなされなかったことにあると思う。

須賀　進学指導の方法にもいろいろあるが、私がいたころの土佐中の授業は要するに生徒の個性を中心にしたもので、やはりこの方法がすぐれていると思う。たとえ大学入試に一回失敗しても、あとのびがきくのです。土佐高も優秀な生徒を集めているのだから自学自習によって独自の長所を掘りさげていくような教育方法をとったらよいと思います。

梶　もともと女子の志望者が少ないんですよ。私の場合なども女子

人間関係に重点を

森下　在学中よく「人材の育成」ということを聞かされましたが、現代において人材というものは人と人とのつながりにおいてつくられるものだと思います。だから今の土佐中・高では、生徒相互や先生と生徒の間における人間関係にもとづいてリーダーをつくるような教育をすることが、進学の精神から言っても必要になっているんではないでしょうか。

中城　ところが今の母校では人間関係ということがまったく除外されて、いわば問題集中心の教育が行なわれているにすぎない。

近藤　問題集中心の教育を受けた人間と、人間関係中心の教育を受けた人間とでは、そりゃー社会に出てから〃のび〃がちがってきますね。

須賀　大切なのは自分の地位じゃなくて、社会に貢献するということです。そのためには〃人をつくる〃という教育が必要になってくる。有名な教育学者のデューイが自分の大学の学生について「本学には **educate**（教育）されるものが多いが、**culture**（教養を身につける）者は少ない」と言っていますが、まったくです。

梶　そのへんで結論として言いたいことは、土佐中・土佐高は私学であることをもっと活用して独自な生き方をしてほしい。政治的な干渉もはねつけることができるのだから、自分の学校の教育という問題を深く考察し、進学よりもまず人間形成を重点的に考えていただきたい。先生がたもこれに応じた教育法―たとえばカウンセラーをもうけることとかをぜひとも検討して、実行に移していただきたいと思います。

近藤　私の言いたいのはそれなんです。いわゆるガイダンスのことで、校内に身上相談所をつくるようにしたらどうでしょう。とくに生徒が自分の才能に疑問をもったようなとき、積極的に相談相手になってやるような施設や準備が必

しかに女子に対する指導が徹底していませんね。共学を続けようと思うなら、それだけの理想と方法をもたなければいけないし、またそれを各小学校へ公示するような積極性があってもよいんですがね。

森下　男女共学でありながら、たまたま坂出商高でのクラブ活動に関する世論調査から。

○…クラブ活動をしていますか、に対して約七五％がしていて、学年別にみると高一女子が九七％でトップ、女子が大体に優勢。

○…両立すると思うかに対しては両立する約六五％。しない二七・二％となっているという。

学年別に見ると、一年男子が四八・二％、即ちクラブ活動参加者のわずかに半数のみが両立を認めているのに対し、三年生男子は七一・四％が両立に集中している。又女子が全般的に両立を認めているのも面白い傾向だ。（六九・三％）

クラブ活動をどんな目的でしていますか

①趣　味	二八％
②精神修養	二二％
③社会性を身につける	一六％
④学習に役立つ	八％
⑤就職に有利	七％

男女共学の徹底を

近藤　男女共学という問題についても考えなければいけないと思います。さいきん女子の入学者が減ったのは、入学試験で男女を同じレベルに置いて採点するからだ。共学を実施する以上、女生徒の定員というか、最低人数のワクをきめておかなければいけないと思いますが…

梶　ですから男女共学という問題については、まだまだ議論が出そうですが、時間も長くなりましたのでこのへんで一応終りたいと思います。新しい時期を迎えた母校がここで画期的な発展をとげることができるよう、あらゆる機会を通してともに協力し合うことを念じたいと思います。

森下　もうすこし先生たちに時間を与えて、先生相互で研究授業を行なうとか、教育問題を討議するような機会をつくっていただきたいものだと思います。

岩谷　母校の今後進むべき道については、まだまだ議論が出そうですが、時間も長くなりましたのでこのへんで一応終りたいと思います。新しい時期を迎えた母校がここで画期的な発展をとげることができるよう、あらゆる機会を通してともに協力し合うことを念じたいと思います。

須賀　私が言いたいのは、生徒はそのようなサークル活動を思いきり活発にやれということ。一方、先生や卒業生たちに望むことは、学校をよくするための研究組織をつくれということです。きょうのこの座談会なんか、じつにいいじゃないですか。こんな会合を東京でも関西でも地元でもどんどん開いて、意見を交換し合うべきですよ。

中城　要するに受験勉強に圧迫された灰色の生活でなくて、ゆたかな中学・高校生活を送るようにしてもらいたい。

須賀　私が言いたいのは、生徒はそのようなサークル活動を思いきり活発にやれということ。一方、先生や卒業生たちに望むことは、学校をよくするための研究組織をつくれということです。きょうのこの座談会なんか、じつにいいじゃないですか。こんな会合を東京でも関西でも地元でもどんどん開いて、意見を交換し合うべきですよ。

中城　先生たちの間でぜひとも研究会をつくって、人材育成のための教育方法を勉強するようにしてもらいたい。

岩谷　私は何をおいてもまず生徒たちに「中学・高校時代には自分のすきなことをだれにも遠慮せずに、思いきりやるように」と希望します。自分のことをふりかえってみて、土佐中・土佐高時代に部活動―私の場合新聞部ですが―を思いきりやらなかったとしたら、私はまったくつまらない人間になってしまっただろうと思っています。

中城　要するに受験勉強に圧迫された灰色の生活でなくて、ゆたかな中学・高校生活を送るようにしてもらいたい。

須賀　私が言いたいのは、生徒はそのようなサークル活動を思いきり活発にやれということ。一方、先生や卒業生たちに望むことは、学校をよくするための研究組織をつくれということです。きょうのこの座談会なんか、じつにいいじゃないですか。こんな会合を東京でも関西でも地元でもどんどん開いて、意見を交換し合うべきですよ。

森下　もうすこし先生たちに時間を与えて、先生相互で研究授業を行なうとか、教育問題を討議するような機会をつくっていただきたいものだと思います。

部　告

新聞部では、来学期にそなえて幹部要員として新部員の募集を行っています。

特に中三生の入部を強く希望しています。入部後は先輩による適切でかつ丁寧な指導のもとに、楽しい部活動を楽しんでいただきます。

祝 土佐中・高創立40周年

振興会会長　西山利平　高知市丸ノ内
振興会顧問　西山徳治　高知市梅ケ辻
同窓会会長　一回生　南政一郎　高知市西洋町
一回生　森岡清三郎　高知市宝町　森岡医院
二回生　弁護士　米沢善左衛門　高知市升形
二回生　細木志雄　高知市大川筋
同窓会副会長　四回生　浜口一男　高知市廿代橋　いまりや薬局
八回生　富田信正　高知市升形　富田小児科

土佐名物東京への御土産に　立石蒲鉾店　本店　京町　電②六二七九
古本誠実買入読者は安い古本で　古本　井上書店　高知市帯屋町中ノ橋通り　TEL②三九二一
同窓の皆さん　福島清三（29回）が土佐塾を開きました！安心してお任せ下さい！
○土佐中受験生の為に
○土佐中受験クラス（小学6年）（小学4・5年）　1,000名にもわたる土佐中・高・新入生指導（土佐中勉強会）の経験を生か し、愛情をもって徹底指導します。
○土佐中受験　日曜指導　遠方で受験指導に恵まれない生徒のために、能率よい勉強法を身　テストを中心に指導します
通信添削指導　につけたい人のために自分の能力を正確に知りたい方のために
○土佐中生の為に
○土佐中初級クラス（中学1・2年）代数、英語は絶対に強くなります。3月足らずで平均して代数23点、英語9点も上っています。
只今募集中！　詳細は土佐塾まで！
土佐中・土佐女子中・高知中・付属中―模範解答付―傾向と対策　最近5カ年間　入試問題集　発売中　明文堂・金高堂　片桐・島内書店
校友による徹底指導　土佐塾　高知市宝永町67　TEL②7743（呼）
時計の修理は　大西時計店　オビヤ町　TEL(2)一三六六
食品添加物・薬品　有限会社　梅ケ辻薬局　梅ケ辻二一一　TEL② 一〇六九 五九九三

土佐高生気質は何でしょう？

アンケート・本校生の意識調査

この調査は、本校創立四十周年記念行事を行なうに当って、新聞部が、本校生はどのような悩みをもっているか、またどのような考えをもっているかなどの、いわゆる〝土佐高生気質〟を知ろうとして行なったものである。対象は、男子が高一三十六名、高二百二十七名、高三七十四名、計二百六名、高二三十九名、高三二十名、計八十名。男女合計三百十七名で、それぞれクラス単位にとった。また参考として追手前高校の男子三十四名（高二を二十名、高三を十四名）女子五十五、二十四名）合計八十九名をとった。文中（）内でことわりのないものは追手前高の比率を示す。

〔案外〕勉強嫌いの土佐高生

全部嫌い…土佐高18％、追手前高8％

1、あなたは勉強が好きですか。それとも嫌いですか。
イ　全部好きです
ロ　好きな科目もあるし嫌いな科目もある
ハ　全部嫌いです

イと答えた者は十％足らず（追手前高は六％）であり、反対にハと答えた者は、追手前高八％に対して十佐高は十八％もあった。おもしろい現象である。

2、あなたは自分が頭が悪いと思って一週間以上悩んだことがありますか。
イ　あります
ロ　ありません

イが、二十九％（二十％）あって高二を頂点として三角形をなし、特に女子にこの傾向が強い。

3、あなたは、どうも人から好かれないと思って悩んだことがありますか。
イ　あります
ロ　ありません

イは大変多くて四十四％（三十九％）。これも女子が圧倒的に強く、また、学年が進むにつれて多くなっているのもおもしろい。

4、あなたは自分の容姿などについて悩んだことがありますか。
イ　あります
ロ　ありません

イが四十四％（四十五％）で、これも学年が進むにつれて高くなり女子は目立って高くなる。

5、あなたはこんな学校なんかに入らなかった方がよかったと思いますか。
イ　いつも思う
ロ　時々思う
ハ　思わない

イが十四％（三％）とわりあいに高くロも合せると四十七％（三十六％）と、オドケタミタイに多いのは、注目していいだろう。

6、あなたは自殺したいと思うことがありますか。
イ　いつも思っている
ロ　時々思う
ハ　一度思ったことがあった
ニ　全然思わない

イ、ロ、ハ合わせると、何と、五十七％（五十四％）と、半分以上もあった。イは、追手前高三％に対して、本校は何と十一％もある学年が進むにつれて、この傾向は十三％、三十六％、四十％と増加している。

7、あなたのお父さんはお父さんとしてどうですか
イ　非常にすぐれている
ロ　比較的すぐれている
ハ　普通
ニ　比較的劣っている
ホ　非常に劣っている

イ、ロ合わせて四十七％（三十五％）であり、五点を満点として評定してみると、平均点三・五点でお父さんは、普通以上のできだということがわかる。

8、あなたのお母さんはお母さんとしてどうですか
イ　非常にすぐれている
ロ　比較的すぐれている
ハ　普通
ニ　比較的劣っている
ホ　非常に劣っている

イ、ロ、ハ合わせて、五十九％（五十二％）と、過半数をしめ、ニ、ホは七％（三％）と少ない。平均点は三、八点（三、五点）でお父さんより高い。

9、両親に対して腹がたつことがありますか。
イ　しじゅう腹がたつ
ロ　時々腹がたつ
ハ　ほとんど腹がたたない
ニ　一度も腹がたったことがない

イは十九％（十四％）も占めており、ロを合わせると七十六％（七十八％）となっている。学年別にみると、高二が一番両親に反抗的らしく、イ、ロで八十％となっている。高一、高三はこれに比べて低い。

10、親から勉強せよといわれて腹がたちますか。
イ　いつも腹がたつ
ロ　ときどき腹がたつ
ハ　腹はたたない
ニ　勉強せよといわれたことがない

イが、追手前高六％に対して土佐高十六％とだんぜん多い。逆に、ハは追手前高が三十六％に対して本校は二十四％とすくなく、ニになると十七％（十九％）と少なくなっている。

11、あなたは卒業して、大学入試に万一失敗して浪人になったら、その時はどう思うでしょう。
イ　非常に憂うつである
ロ　少々憂うつである
ハ　何とも思わない
ニ　その方がうれしい
ホ　わからない

これにはおもしろい結果が出ている。イは三十％（三十八％）ロ、二十八％（二十二％）で、少し、追手前の比率が高いくらいだが、ハになると、追手前高、九％に対して本校は十三％、ニについてみると追手前高は一人もいないのに本校では六％もいた。入試を後三ケ月にひかえた高三だけについてみても同じような結果がでている試験、試験と追われながらも、本校生は、わりあいに精神的なゆとりを持っているといえそうだ。

12、あなたは結婚する時にはどの方法でしたいと思いますか。
イ　絶対に恋愛
ロ　できれば恋愛
ハ　できれば見合い
ニ　絶対に見合い

イと答えたものが三十一％（二十一％）ロは四十五％（五十八％）と、圧倒的に恋愛結婚支持者が多い。

13、現実には、あなたの場合にはどの方法になると思いますか。
イ　十中八、九恋愛だ
ロ　どちらかといえば恋愛だ
ハ　どちらかといえば恋合いだ
ニ　十中八、九見合いだ
ホ　どっちともいえない

ホが二十六％（四十三％）とやはり多いが、イと答えたものが二十七％（十九％）ロが二十一％（二十六％）と、なかなか進歩的な人が多い。男女別では、男子は恋愛女子は見合いが多かった。

14、非常に尊敬していて、側にいるだけでもうれしくなるような先生、または嫌いで顔をみるのもいやだという先生がありますか。
イ　あります
ロ　ありません

イは追手前高、五十五％に対して本校は四十八％と、少ないのは、土佐高生は、先生を絶対者とみることなく、一人間とみているということで、比較的大人ぶっているということになろうか？学年が上るごとにイの比率が低くなっている。

15、もし神様があなたの願いをたった一つだけかなえてやろうといえば、あなたは次の中どれにしますか。
イ　金持にしてあげよう
ロ　政治的権力を与えよう
ハ　素的な恋人をあげよう
ニ　偉大な学者にしてあげよう
ホ　何でも打明けて話せ一生つきあえる仲間を与えよう
ヘ　すばらしい芸術家にしてあげよう

十佐、追手前とも、ホが三十三％（四十四％）でトップであるが、二位は十佐はハで三十％（十六％）追手前はイで二十四％（十佐高は十四％）で、大部違っているロ、ニ、ヘは五％内外で少ない。

16、次の中であなたが絶対なくてはならないと思うものに○印、なかった方がいいと思うものに×印をつけてください。
イ　男女共学
ロ　紀元節
ハ　自衛隊
ニ　高校の全員入学制
ホ　ホーム・ルーム
ヘ　道徳教育

イでは、○が八十二％（七十九％）で圧倒的。×が九％（一％）あった。ロでは○が二十二％（十四％）あった。ハでは○が三十一％（十％）に対し×が四十七％（五十四％）あった。ニについては、○が追手前の四十六％に対し、本校は十二％と大変少なく、逆に×は、追手前二十二％に対して、本校六十七％と、私立と公立の違いを表わしている。ホは、○が六十五％（六十四％）と多いが×も十六％（五％）とかなり多い。ヘは、○、三十三％（三十％）×四十一％（三十三％）となっている。

17、異性の親しい友達がありますか。
イ　あります
ロ　ありません

イが三十七％（三十％）と本校の方が追手前高に比べてかなり多い。また学年別では高一がもっとも多いが、これはやはり世代の違いだろうか？

18、知らない人の前で言葉をすらすらいえないことがありますか。
イ　あります
ロ　ときどきある
ハ　ありません

イ、ロ合わせて七十八％（八十四％）あり、男女別では女子の劇合が大きく、学年別では高三が一番大きい。

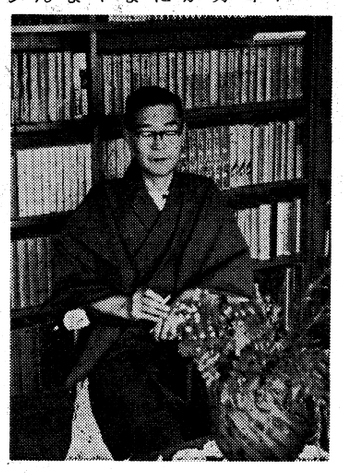
19、あなたは寝つきがよい方ですか、悪い方ですか
イ　毎晩ねむれないでこまっている
ロ　ときどき寝つきが悪いことがある
ハ　非常によい

ハが四十二％（三十二％）で、イはわずか八％（七％）しかない。高三についてみても同じ結果であり、本校生はだいたい精神健全のようである。

以上の調査の結果より、十佐高生気質というものが、一般に思われていることと少し違っていることがわかる。十佐高生は公立校の生徒とくらべて、反抗期が比較的早く終り、大人びていることがわかった。これらは、本校生がだいたい恵まれた家庭に育っていることにも、本校の制度にも、関係があるのではないだろうか。（なおこの調査に際して、高知女子大の笹原邦彦先生と追手前高校新聞部に御協力をしていただいた。

石川其治は今日も行く

教師という名に命をかけて



秋雨の降りだした日曜日、記者は国語担当の石川其治先生の家をお尋ねしました。和服姿の先生はそれでも眼鏡はかけたままで、書架に囲まれた応接室に迎えて下さいました。

「先生 何か宗教をおやりですか」

しとしとと降り続く秋雨や壁に「聖六々」の絵の掛けられた部屋全体の雰囲気がそうさせるかのように、記者はまず（こう）お聞きしますと、

「宗教かね。若い時にはあらゆる宗教を研究してみたが…どうも私には納得がいかんのでねえ仏教、キリスト教と雖も、ほんとうに自分の心に納得できなければ私は信ずることが出来ない知識から入って納得して、初めて信仰があるものだからねえ」

また先生はそのような心持の内にあって、若い時から研究し続けて現在に至って熟した、いや先生はこう言われるのです。

「私もどうやら、やっとまあこれくらいの所まで来たわけだがしかし完全と言うものは有り得ないもんだからねえ」と。哲学的、宗教的、そして社会科学的思想の上に、先生独自の「人生哲学」を打ち建てられたのだそうです。現在の生活についても「格別良くもなければ、それかと言って悪くもないねえ」と眼鏡の奥と口許に微笑を浮かべた例の静かな調子で語られます。

我々が先生の国語の授業を受けて、何か国語だけにとどまらない深さを感ずるのも実はその「人生哲学」に有るのではないでしょうか。

趣味は若い時には剣道とボートの選手をやられたそうですが今はもう草花を作ったり、鶏やカナリヤを飼ったり。どこからかカナリヤが、それに答える様にさえずっているのが聞こえます。—謡曲は好きだから毎日やっていられるとのことです。またこの先生ありてこのお嬢さんありで、薄桃色のカーディガンに黒のブラウス、スマートなお父さん似のお嬢さんは琴をおやりになるとのこと。奥さんとの結婚は恋愛ではなく見合でもなくて「自然な知り合い」だということです。また先生は若い我々にも、ゲーテや宮本武蔵、佐々木小次郎などを例に引かれて「恋愛は、自分の人生の第一義を知ったうえで、いつもその励ましとなるものでなければならないねえ」と語られました。

ここで記者、ちょっと月世界旅行へお誘いしてみますと、「月へ行っても空気も無いし、人間も住めんろうがね」と、どうやら地上の方が（気持が）良さそう。しかしここで（ああ、先生は早そんな年なのか）と考えたり、するのは愚かなこと、なぜなら「若さを失ったらだめ」と幾度も口にされていたのですから。してみると、どうも先生宇宙旅行なんかには あまり興味がないのかな。

「我々若人の道はいかにあるべきか」先生はこれについても、「常に学習と生活の一致を計りながら、大学めざして不断の努力をすることは、人間としての立派な生き方ですよ」と、ともすれば「灰色の青春」と名づけたがる我々に、何かを暗示して下さいました。

最後に今後の抱負をお聞きすると「それといって別にないが、まあ強いて言えばこれじゃあねえ」と、あの「新撰組の歌」の歌詞を変えた、こんな歌を教えて下さいました。

土佐の高校で、生徒がきわぐ今日も実力模擬試験。
教師という名に、命を掛けて
石川其治は、今日も行く。

「さわぐというのは「騒ぐ」ではないぞね」しかしこれは、少くとも土佐に学ぶ者、学習に対して真剣である者にはおのずからひらめく言葉であることを先生は知っておられたのか、それ以上は説明されませんでした。

そして記者は、先生の御健康をお祈りしながら再び雨の中へとおいとましました（O・Y）

なくてはならぬ男女共学

教育方針に根本的な改革を

高三Sホーム　前田潤一郎

現在の土佐高カラーについては毎年同じことが反省されておりながら、表面的には何ら解決策が施されていないように見える。それどころか、ここ数年間生徒の質が悪くなりつつあるという声さえもきかれるようである。残念ながらそれを実証するかのように、最近不良生徒に関する問題が急激にクローズ・アップされて来ている。これは社会的傾向による影響も大きいには違いないが、やはり本校の教育方針にもある程度の欠陥があることを認めざるを得ないと思う。四十周年記念の式典を迎え、ここらで根本的改革を望んでいる者も少くない様である。しかしながら、その解決策ということになるとなかなか容易なことではなさそうだ。単に我々生徒の自覚だけで根本的に解決できる問題ではないと思う。根本的な原因が学校当局の教育方針にある以上、学校側の真剣な反省が必要ではないだろうか。ここ数年間、毎年同じことが反省されながら、未だに学校側に解決策に対する真剣な態度が見られないのはどうしたことだろう今までにも不良生徒に関する対策等も出されたことはあった。しかし、それは単なる対策であって、根本的に解決するためのものではなかったように思う。我々の望んでいるのは、いかにすれば不良生徒を出さずにすむかということであり、不良生徒をいかに処分するかということではないことは学校当局も充分承知していられることと思う。四十周年記念の式典を迎えもう一度真剣に教育方針に対する反省を行っていただきたいものである。卒業を数カ月後にひかえ一言学校当局にお願いする次第である。

皆で協力を

高一Sホーム　岡本三千代

運動会も済んで、ホット一息というところ、十八日からの文化祭が、追っかける様に来ようとしている。「土佐」を慈するこの学校も創立以来、いろいろな変化を受けながら、はや四十年。

昔の土佐校生がどんな様子だったかはわからない。が、今の私達は余りに冬々が孤立しているみたいな感じがする。自分に関係のないことには恐しく無関心だ。これは私の思い過ごしかも知れない。ホーム・ルームなんか、高校になると特別に設けられないということもあるだろうが、馬鹿に家に帰りたがるし、事実皆帰って行ってしまう。とかく討論会のようなものを持ちたがらない。自治活動機関である生徒委員会にしても、委員を選んでしまえば、あとは万事お任せします式にどのような活動をしているか、まるで知らない人が多いのではないでしょうか。

先の運動会にしても、競技者は一生けん命やっているのに、うしろでキャッチボールをしてみたり見るにしても、ただボサッとしている人が大半だったり、こんな場合のエチケットがなかなか守れ学いのが、私達の一つの特徴じゃないでしょうか。

クラスの中でさえ、孤立しがちな現状ですから生徒のたての関係は、一部の部へ入っている人を除いては全然ない状態です。それから、他の中学から来た人が皆言うことですが、私達の学校の人はどうして男、女を区別するのでしょうか。私もその一員でありながら余りに意識しすぎるんじゃあないでしょうか。と云っても、長い習慣でなかなかすぐにとはいかないでしょう。四十周年記念日を記念して朝夕の挨拶をするってことはどうでしょうか。あっちでも、こっちでも「お早よう」「お早ようございます」って、一寸楽しい事じゃありません？こんなささやかなことでもクラスの学校全体のつながりを深くするためにはずいぶん効果のあることではないでしょうか。

声

余裕ある高校生活を

高二Kホーム　西内　健

「ハイッ」と手の上がる中学校の授業を見ていると「高校でも授業がもっと楽しくなればいいな」と思う。実際、高校になってからは、クラス全体が楽しく受けた授業は、十指に満つまい。科目は難かしくなっても、それなりに楽しい授業があっても不思議ではないのだが。

思うに、試験の成績のことが我々の頭をあまりにも占めすぎていて、配点や難易度を考えつつ授業をうける傾向が大多数の生徒にあって、試験の問題に関したことをやる、時間には寝うつな、そうでもない時間には馬鹿にしたような雰囲気を作るのではなかろうか。

この悪習はどこから来たのだろうか。生徒の周囲があまりにも点だの、順位だの言いすぎて、生徒までが成績第一主義に陥るのではなかろうか。勉強の大切なゆえんは、その結果よりもその努力である。配点を考えて授業を受けるのは、利口な方法かも知れないが、賢明な方法とは言えまい。この成績重視の潜在意識が「部へ入りたいが、成績が落ちる」という懸念を生みだし、クラブ活動から遠ざけ、しいては個性を抑制することになる。運動その他の趣味を持つことは遊ぶことではない。心に余裕を持つことだ。常に努力しつつなお心のどこかに余裕のある態度これによって始めて健全な明るさが得られるのではなかろうか。机の上だけの「勉強」に追いまわされて高校から押しだされるよりも伸び伸びとした高校生活を送りたい。現在のために未来を失うのは厳禁だが、将来のために現在を犠牲にするのもどうかと思う。もう少し「勉強」の真の価値を考えて余裕のある生活を送ろうではないか。

落ちつきのある高校生に

中一女　M・A

私達が、一年には入るとき小学校の先生に「土佐の生徒はとても秀才で、不良みたいな人は全くないので良い学校ですよ」と聞かされた。

私はこの伝統ある土佐に入学できたことをとても光栄に思いました。ところが入ってみたら、不良みたいな人を時々見かけてびっくりしました。

私の夢は一度に破れました。その不良みたいに見かける人は主に高校生でした。

今年の高三は非常にほがらかで良いと思いますが、それがいきすぎてかえって良くない人が多いではないでしょうか。大学受験をまじめにひかえてもう少しおちつきのある高三になって大学の道へも就職の道へもりっぱな成果をあげて下さい。これは在校生のみんなが望むことです。

下級生の手本に

中二女　H・O

私達がまず高校生にのぞむのは学校の規則をもっと良く守ってほしいのです。この学校へ入学したとき、先生方からいろ〳〵の注意を聞きました。私達はその注意や規則をよく守ろうとしましたが、上級生（一部の人だと思いますが）を見てがっかりしたことがあります。たとえば、学校へ来る時の服装、はき物（げたや規定以外の色の靴などをはいている者がある）など沢山あります。それから講堂での集会のとき、後の方の男子ですが、前で話をしているのを聞いていない、それは近くの数人の人が話をして前で言っていることが聞えない。だから自然にやかましくなっていくから、前の話をまじめに聞いてほしい。

上級生は下級生にもっと親切であってほしい。腕力を用いて自分の都合の良いことをするから上級生をいやだと思うことが度々ある。それで「私達が高校になったらあんなことをしない」と話すことも度々ある。一部の人のため学校の名がきずつくようなことをしないでほしい。

東京支局から

新聞部の出身者が主となって講成している「向陽プレスクラブ」では、機関誌「向陽クラブ」第二号を、二十日頃に発行する。

この「向陽プレスクラブ」は新聞部を通じて、常に母校と連絡を保ち、母校のよりよき発展のためにつくすと共に、会員相互の親睦をはかろうとするものであるので機関誌は、常に母校に関することを中心に編集を進めている。

今号（第二号）は特に、土佐高創立四十周年を記念して「現代の母校へ望む」というテーマで編集をした。

母校の現状を鋭くえぐる

「向陽クラブ」第二号近日発行

〈土佐中高創立四十周年記念特集〉

その主な内容は、次のとおりである。

① 母校の現代の問題点にするどいメスを入れた、岩谷清水著「四十周年 記念 このだらしなさ」

② 〝建学の精神〟という言葉がもう一度考えなおさねばならぬ今日、三根初代校長時代の昔にさかのぼって、歴史的にこの問題を考察した「母校を貫く建学の精神」を中城正堯が執筆。

③ 同窓生として、また友人としての立場から、現校長に適切な助言を述べる、片岡義信氏著

④ 母校の先生方に、卒業生としの立場から、種々の希望、意見を述べた座談会「母校の先生方よお聞き下さい」

⑤ 母校の現状を観察し、その内在するさまざまな問題の解決のために、もう一度四年前の同盟休校に思いを起して、岡林敏性を尋ねる「曽我部さんの人間真が筆を執った「両盟休校は解決されていない」

⑥ 十佐高におけるクラブ活動のあり方を、嘗てクラブに籍を置いた者の立場から考えた、吉川順三著の「十佐中・高こそクラブが大切」

⑦ 教諭として、また新聞部顧問としての目で、十佐高の教育のあり方などを深く観察した、木内由雄氏著の「十佐中・高のために」

⑧ 近藤久寿治氏（本校六回生）に田内敏夫が現校長の人間を聞く」

⑨ 向陽寮歌の作曲者平井康三郎氏（五回生）が自から筆をとられた「向陽寮の思い出」

その他、母校新聞部が寄稿した「ガリベンはやめて個性の伸長を」竹内銑郎の随筆「寮生活雑感」など、盛り沢山の内容を持っている。これらは、いずれも母校の現状をするどくえぐり母校のよりよき発展を願って、建設的な意見を述べたものであり、校長、教諭、在校生はもちろん、十佐中・高の教育には重大な関心を持つ御父兄の方にも読みのがすことのできない必読の書である。

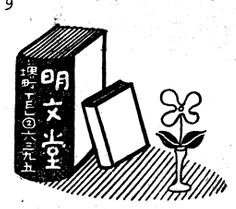
向陽プレスクラブでは、十佐中・高も創立四十周年を迎え、いろいろな面で重大な転機に来ているという声が聞かれる現在ぜひ「向陽クラブ」第二号を読んで、学校当局、教諭、生徒、父兄、同窓生の方々に今一度、十佐中・高について考えていただき、一層、明るい学園建設のために御協力を願いたく思う次第である。【東京支局】

机・本　箱・椅　子
ことぶきや家具店
オビヤ町中の橋通り西角　TEL②2771

学生の店
同和のミルクホール
ミルク　トースト　（セントラル前）

新薬と調剤は
はりまや薬局
はりまや橋　土電会館南隣り
TEL　②2665

イリキ眼鏡店
播磨屋町　TEL②0998

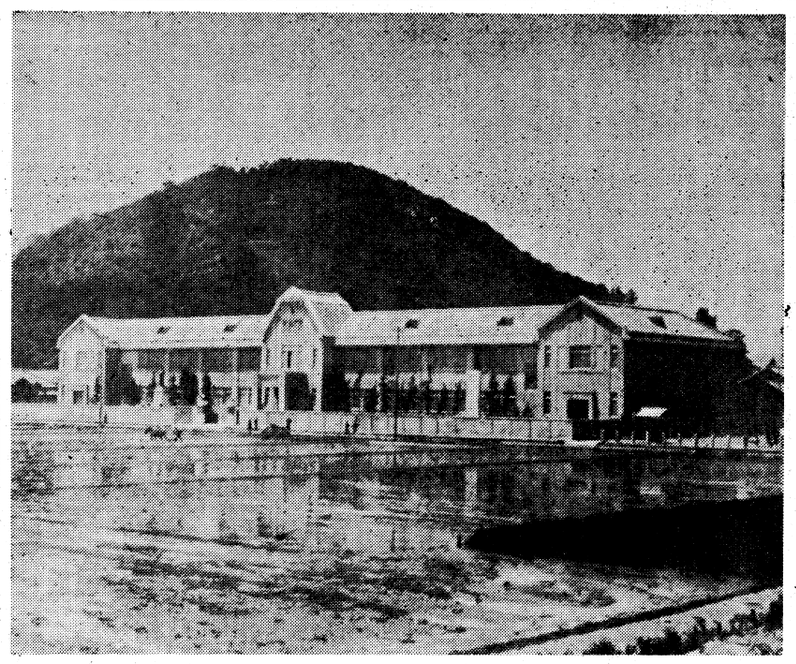
辞書・参考書
ザツシ
螢雪時代
高校時代
中学時代
予約承ります


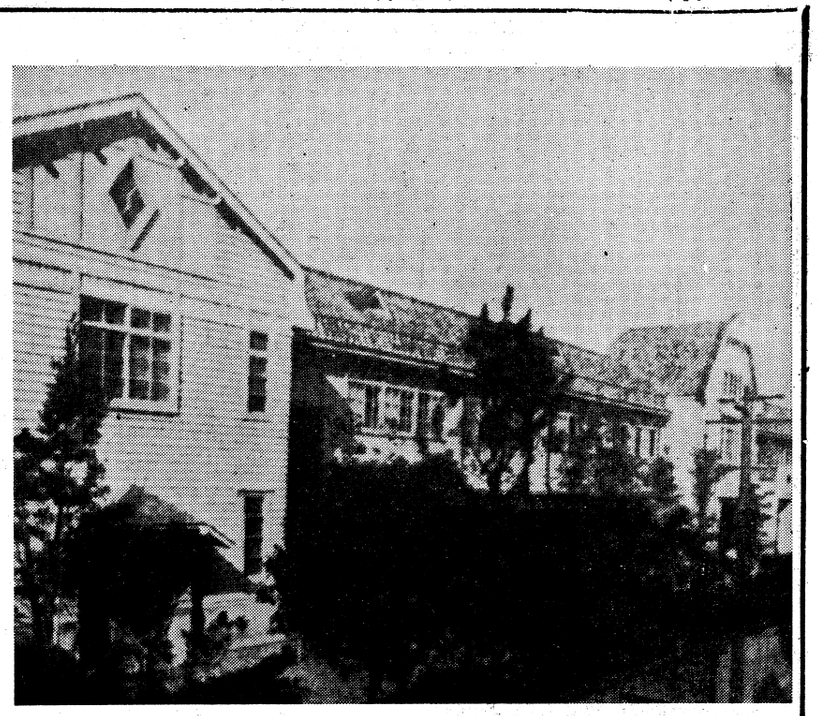
秋の行楽は是非当店で!!
TEL　②0105・0106
すし柳
高知市南ハリマヤ町

近代的センスの美しさ……
きもの　新柄品揃
ヤマフジ呉服店
高知市帯屋町　電話②0620

御進学に
御入学に　鞄　なら
こらや
正札で安心して買える専門の店
オビヤ町　TEL②2592

制服
は
高知学服
（入　交）
中の橋電停北側
電話②2744番





初代・三根

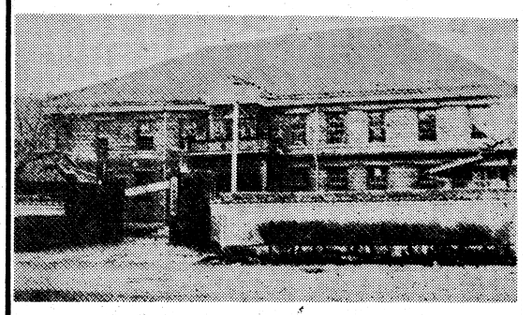
二代・青木

本校の今昔記

本年で創立以来、四十年目を迎えた。大正九年四月十六日、川崎宇田学校法人土佐中学校として、生徒数二十八名で川崎家の帯屋町にあった控家を仮校舎として発足した。戦前は小学生徒の直接指導による英才教育が行なわれた。しかし戦後、経済的な事情で生徒数を増した。この間初代三根円次郎、二代、青木勘、三代大嶋光次、そして昨年就任した四代現曽我部清澄の四先生にわたってうけつがれて来た。ここに創立当時の仮校舎、本校舎、四校長先生の写真を収め、また一回生、神戸大教授、独文学者の岡村弘氏と二十八回生、日本銀行勤務の馬場絢子さんの戦前、戦後の二つにわけての思い出の記を掲載した。

三代・大嶋

四代・曾我部



【写真説明】左端、戦前の校舎全景、現在と同じく潮江にあった。大正十年十月に着工し、工費は時価で約二十万円をかけて大正十二年十月末に完成。
右上　右と同じく戦前の校舎
左下　創立当時、帯屋町にあった仮校舎。

凡庸に堕するなかれ

三根校長と土佐中教育

神戸大教授　一回生　岡村弘

戦

前の土佐中学校出身者ならみなご存じだろうと思うが、昭和十八年土佐中学校同窓会から刊行された三根先生追悼誌という本がある。昭和十年に亡くなられた初代校長三根先生の追憶記を同窓生たちがもち寄ったものに、東京の同窓生有志の座談会の記録を加え、井上清君の筆になる先生の略伝も収められている旧制中学校の校長とそこに学んだ少年たちとのあいだにこんな密接な人間関係があったということはほかではちょっと考えられない、稀有な美しい記録である。じつは私は在学当時のみならず、成人して後もいろいろと先生のお世話になり、自分は先生の特別な「お気に入り」だと確信していたのが、この記録を見て、沢山の同窓生が同じようなことを言っているのでいささかがっかりしたほどである。

その座談会のなかで、平井保喜改め康三郎君が、中学卒業後音楽学校へ進もうとして、家の人々の反対をうけて迷っていたとき、三根校長から安易、平凡な道を歩むよりあえて芸術家としての道を進むようはげまされ、家人の反対も校長が説得してくれたことを、感謝をもって語っている。そして音楽学校入学後、校長からもらった年賀状にはただ「凡庸に堕するなかれ」とだけ書いてあった。「この『凡庸に堕するなかれ』ということが土佐中学の教育の真骨頂ではなかったかと思います」と平井君は語っている。こういう受取り方をした教え子が一人でもあるということは、初期の土佐中学校がまま誤り伝えられるようにガリガリの受験予備校などではなかったことを、はっきりと示すものだと私は思う。じじつ、旧制高校の校長などにも擬せられながら、あえてそれをけって、土佐の田舎の私立中学の校長として赴任してきた三根先生に、人間を育て上げるという教育者の本来の楽しみがなかったら、どうしてそんな酬の合わないクジを引く気持になろう。創立当時の事情は、私などもちろん知る由もないが、おそらく教育面での全権を委ねられ、少数の子弟を選んでなんの制肘もなく自分の思うように人間教育をする期待に胸をおどらせながら、土佐の地に来られたことと思う。当時先生に教わった私たちにも、先生のその意気込みはじゅうぶん感得されたのだった。或日の講話、校長が受持っていた修身の時間などに、ただ馬車馬のように勉強せよなどという語は一度も聞かされなかった何のために勉強するのか、そういう少年の当然な疑問に対して、あまり口数を多くは費されなかったが、校長の与えた答えは、人間完成のためというのであった。すくなくとも当時の私はそう納得していたことをはっきりと憶えている。時代も良かったのかも知れない。しかしただ時代のせいだけではない。導く人の明確な姿勢と強い情熱とが少年たちの陽々にまで泌み通り、一つの学風をなしたのである。進学の成績がいいなどということはその副次的な結果であったに過ぎない。当時の一般の中学校では音楽、絵画の教科は継子扱いされていたが、私たちの学校ではそれに力を入れた。常磐先生とか長谷川先生が、その指導にあたられた。その音楽室から平井康三郎も生まれたのである。

最

初の二年間は帯屋町の仮校舎で学んだ。それまでは県庁で使っていた建物で、タイシャ色のペンキが、はげかかった古色蒼然とした木造家屋で「耕地整理課」などという門札がまだそのまま残っていたりした。便所には怪しげな落書がたくさん残っており、父兄会でそれが問題になったこともあるらしい。隣りは高知病院で境界の竹垣にはホータイを乾してあったり、また看護婦の白衣がチラチラするのが見えたりした。校舎に付属する、むかし宿直室にでも使ったらしい建物が、書記の山本さんの住宅になっていて、私たち寄宿舎にいた生徒は、コスモスの花の綺麗に咲いたその庭先で頭を刈ってもらったこともあった。土佐特有のはけるように青い秋空の下ではこの古ぼけたタイシャ色の校色も独得な美しさをもっていた。当時の私たちはキモノにハカマを着け、そして制帽をかぶり靴をはいていた。この姿でテニスもやり、日曜日の外出もしたものである。テニスをするとき、キモノの袖が特別にひらひらするので、片岡義信君のテニスを「カエデ」流と名付けたのは私だったかもしれない。

大正十一年四月、潮江の現在の校地へ移ったころは、新校舎の周囲は全部青田で、夜になると蛙の声がやかましかった。予科（小学校の五、六年）の生徒も収容した寄宿舎では夕方になると、郷里のお母さんのことを思い出して、廊下の片隅でしくしく泣いている生徒がいたりした。舎監の国語担当の越田先生はよく舎室にはいって来られたが、晩酌のお酒がすこしはいっているときには特に機嫌がよく、やさしかった。そんなとき突然君は将来は小説家になるんだろうな、と私に言われたことがある。私が目頃、作文の点が良かったのでそう言われたと思うが、ひどくはずかしくまた嬉しかったことを憶えている。学校の図書館にあった、大型の二冊本で大きな活字で印刷した蘭外の「即興詩人」に読みふけっていたころのことである。寄宿舎の裏手に、ただ一軒潮江山へ墓参に行く人々のためにシキビや花を売る小店があり、駄菓子の類もならべてあったので、夕食後ちょいちょい寮生たちはそこへ行ってはアンパンを食べラムネを飲んだりした。そこには女学生の娘がいたが、丸ぽちゃのちょっとした美人で、寮の上級生たちのあいだではその人のことをしきりと噂題にした。いつかそうしたあることをやめた瞬間、私はその庇護の下から追い出されまったく独りで、冷たい大人の世界へ出て行かねばならないのである。生活出来るために入試には泉非受からねばならないと私は思った。私の弱点は数学である。その翌朝から毎朝五時に起き、起床時間の七時まで二時間数学の勉強をすることに決め、その後ほとんど一日も休まず、そのスケジュールを守り、吉岡という人の参考書で代数と幾何を勉強した。

入試では私は数学はほとんど完全に出来た。無事入学出来て、三根先生のお宅へあいさつに伺うとすでにちゃんと入試の成績を調べておられた先生は「山崎（秦泉寺清三君）が一番で、君は×番だよ」と教えて下さった。それは私自身意外なほどの好成績だった。私が面映ゆい顔をしていると「君もこれほど出来たとは思っていなかったんじゃないか」と、先生御自身もいささか意外そうな、満足げな微笑をもらされた。このような先生の微笑を見る機会は私にはその後なかった。

昭和五年、土佐中学の第一回生が大学を出た年は世間は不況のどん底で、卒業生の就職状況も惨憺たるものであった。東大を出た連中のうちで、卒業までにちゃんとした所へ就職が決定したのは片岡君ぐらいのものではなかったかと思う。第一回卒業生だというので世間の注視を受けていただけに、三根先生の御心痛は生易しいことではなかっただろうと思われる。そのころのある日上京された先生を開んで本郷の鳥屋で、一回生が会食をしたことがある。出る話は片岡君を除いては、みな不景気な話ばかりだった。その席で三根先生は例の黒眼鏡を私の声のする方へ向けて「君はもう今ごろは新進作家で売出しているんじゃないかと思っていたんだよ」とぼつんと言われた。このお言葉は私にははずかしくそして悲しいものだった。

年頃になっていたのである。

だんだんと、個性がはっきりと出てきて、同級生や下級生にも、はッと眼をみはるようなことがあった。曽我部清澄君が物理学に異常なほどの興味を示すようになり、授業が終ってからも小林先生のあとをついまわり、熱心に質問をしていた姿も眼底に残っている。給仕をしながら、かつ生徒でもあった都築宏明君と私は、寄宿舎で同室であったが、同君は風邪をひくといつも熱さましの薬をのんで、ありたけのフトンを頭からすっぽりかぶり、寝巻からフトンまで濡れるほどの汗を出して熱を下げる療法をとっていた。それが見ていていかにも苦しそうなので、どうしてそういうことをするのかとある時たずねると、謙虚な人柄の都築君は「僕はこうして苦学しなければならない境涯ですから、病気しても永く寝ているわけにはいきません。風邪を早くなおすのにはこれが一番です」と、ていねいな口調で答えたのが、深く印象に残っている。

越田先生のあと、舎監は数学の大野先生に変った。私は数学は苦手だったのでこの先生のお覚えはよくなかった。ビンシロという綽名のように、敏捷にどういうもせき立てられるのも堪えられなかった。そのころ私は絵が好きになり、美術学校へ行こうかなと考えたりしていた。それで四年の二学期になり、来春の高校入試を控えて、みんなが放課後も課外授業に残っているのを他所目に見て、ひとり潮江山へスケッチに行ったりした。入試もあと二ケ月に迫った一月初旬の土曜日の午後、私は公会堂であった音楽会を聴きに行って帰って来ると、いまごろそんな所へ行くとは何事かと、大野先生に頭からどやしつけられた。その午前にあった数学の模擬試験で私が零点に近い点をとったからであった。音楽会へ行って何が悪いんですか、私はそんな抗弁をした。入学試験に落ちたらどうするつもりだ、という先生の言葉は、しかし私にはこたえた。私は土佐中学では給費生だった。高校へ入れば県の貸費生になる見込はあった。いわば学校を続けているかぎり私は何かの庇護の下にある。学生であることをやめた瞬間、私はその庇護の下から追い出されまったく独りで、冷たい大人の世界へ出て行かねばならないのである。生活出来るために入試には泉非受からねばならないと私は思った。私の弱点は数学である。その翌朝から毎朝五時に起き、起床時間の七時まで二時間数学の勉強をすることに決め、その後ほとんど一日も休まず、そのスケジュールを守り、吉岡という人の参考書で代数と幾何を勉強した。

入試では私は数学はほとんど完全に出来た。無事入学出来て、三根先生のお宅へあいさつに伺うとすでにちゃんと入試の成績を調べておられた先生は「山崎（秦泉寺清三君）が一番で、君は×番だよ」と教えて下さった。それは私自身意外なほどの好成績だった。私が面映ゆい顔をしていると「君もこれほど出来たとは思っていなかったんじゃないか」と、先生御自身もいささか意外そうな、満足げな微笑をもらされた。このような先生の微笑を見る機会は私にはその後なかった。

昭和五年、土佐中学の第一回生が大学を出た年は世間は不況のどん底で、卒業生の就職状況も惨憺たるものであった。東大を出た連中のうちで、卒業までにちゃんとした所へ就職が決定したのは片岡君ぐらいのものではなかったかと思う。第一回卒業生だというので世間の注視を受けていただけに、三根先生の御心痛は生易しいことではなかっただろうと思われる。そのころのある日上京された先生を開んで本郷の鳥屋で、一回生が会食をしたことがある。出る話は片岡君を除いては、みな不景気な話ばかりだった。その席で三根先生は例の黒眼鏡を私の声のする方へ向けて「君はもう今ごろは新進作家で売出しているんじゃないかと思っていたんだよ」とぼつんと言われた。このお言葉は私にははずかしくそして悲しいものだった。

"人は古きに如かず"

すべて懐しい土佐中・高校

二十四回生　馬場絢子

私

が一中学生として、土佐中の門をくぐったのは、昭和二十二年、戦災の傷跡も未だ生々しく、学校には、その前年、先生方初め在校生自身の手によって、仮校舎が建てられたばかりの頃であった。

入試は市内の南のはずれに、戦災を免れた市立商業高校で行われた。我々受験生の世話をして下さったのは数年上級の方達であったが、その中には入学時より高校一年迄、ずっと担任としてお世話して戴いた山本先生がおられた。数年上級の方と云っても薄い髭を貯えられたり、渋いバスで我々に「静かにしろ！」怒号されたり、余りに眞緑十分なので先生から生徒が見分のつかない様な方もいられる。中で、山本先生はどうしても、今、自分が恐る恐る入試に臨む中学校の先生とは思えなかった。これは失礼な云い方にきこえるかも知れないが、先生は、小学校を離れたばかりの私の目に、中学校の長敬すべき先生ではなく、自分らと同じ側に立っている親しいお兄さんの様な印象だったのである。

山本先生、松浦先生、小松先生は、私達が学生の頃とちっともお姿りにならないとは、今夏帰省の折Kさんの言葉であった。

当

時、仮校舎は教室にも廊下にも床板がなかった。やがて床板が張られると、下駄ばきの足音がうるさく履物のこと が問題となった。革靴などは珍らしく、運動靴も底がすぐ剝れる品物の多かった頃、上履は専ら藁や竹の皮の草履が用いられていたのもなつかしい気がする。

一年生の頃最も記憶に残っているのは、国見先生による開校記念碑文の暗誦と、昼休み上級生に呼ばれて、本校生徒のくせに未だ校歌も知らぬか、と云った口調で叱られた事である。土佐中学には上級生が下級生をきたえると云うことがあるとは、かねて噂に聞き及んでいたので、もしやといささか胆を冷して成行を見守っていたが大声で叱咤されただけで終り、ほっと緊張をゆるめた。或はこれがきたえることの名残りであり最後のものであったかもわからない。

筆山の麓、鏡川の畔、校舎蝟々として、咿唔の声雲に響く、是、土佐中学校に非ず、開校記念碑文は雄渾な漢文調である。仮校舎は、先輩方の文字通り汗と脂によって建てられたものであることは校長先生からさとされていたが、腕白の一年坊主どもは「蝟々」という厳めしい言葉の音を擬して、「校舎ギイギイとして」などと、変な文句を作ったりしたものである。私をして最も中学校の先生らしい先生と感ぜしめた国見先生はその後まもなく「日に新なれ」と云う言葉を残されて、教壇を去って行かれた。長身の先生との告別はなにか本当の先生を失ってしまうような寂しさを、私の胸に残したのだった。

本当の先生。私が他の先生方に本当の先生を感じないと、そんな不埒を云っているのではない。幾らか大人に認めて貰えそうな中学生となって、少し気取ったその気持に全くこちらを大人として扱っているように見える国見先生に、本当の中学校の先生と云う印象を受けたのであろう。

一

般的な行事は種々あったけれど、思い出として今浮かぶ幾つかのものがある。あれは何年生の時だったかしら、朝から教室での授業はおいて、ぞろぞろと映画観覧に出掛けたことがあった。映画は美しき舞姫モイラ・シアラアの演ずる「赤い靴」であった。幻想的で、映画技術を駆使した美しいものであった。後のやはりシアラアの演じた「ホフマン物語」程に超現実的なものではなく、物語には実際的な筋が通っていた。映画を観て外に出た私は、かすかな興奮と朝日の輝きに眩惑し、朦朧として、足下のコンクリートを見つめながら、再び長蛇をなして鏡川を渡り帰って来た帰校後、第一限は社会科で担当はI先生。教壇に立へられると開口一番、あの様に美しい（と云われたかとにかくその様な類の修辞語であった）映画を観た後で、此の様な殺風景な教室ですぐに勉強を始めるとは、残酷なことである。と云う風なことを云われ、まだ確かに興奮さめやらぬ面持であられたその時の生徒の反応はどうだったか、残念ながら思い出せない。そしてその時の授業に何を教わったかも既に忘れて了ったけれど、あの映画の〝美しさ〟と、社会科授業のプロローグだけは忘れないでいる。

映画のついでにもう一つ映画部のことを記そう。高校卒業のアルバムに部活動の模様を組み入れると云うので、皆それぞれに二つの部を選ぶこととなった。私は少なからず思い出を持つ新聞部と映画部とに入って、記念の写真を撮った。新聞部は、私がもう二年ものぞいたことのない部室に入って、借りて来た猫のようであった。映画部は、夜間某劇場前に集合した。折しもアイヴァンホーの上映中で、美男美女の看板が路上に立てられてあった。Nさんは美女の傍では見劣りがするなどと云いながら写真に収ったものであった。いつかの部会で、好きな映画は「パリ祭」と云ったNさん。私には松浦先生が「往年の名画」と云って紹介して下さったパリ祭も、唯喧噪の中に終って、さしたる感動もなかった。後年、パリ祭なる記念上映に再びこの映画を観て、やっと感動のしどころがわかった気がした。と同時に、Nさんの大人びた感想を想起し、今は九州に居られると云う彼女をさすがはと感じたものである。

こ

れは中学の時であった国語の時間に、M先生は芥川の「鼻」を読んで聞かせて下さった。「禅智内供の鼻と云へば池の尾で知らない者はない。長さは五六寸あって…」M先生はその外貌によって、悪童もから馬なるニックネームを進呈されていた本物の馬は顔が長く、その顔の大部分は目から鼻孔に至るいわゆる馬面の鼻である。それなのに、M先生は何故あの様な小説をお読みになるのかしら、優等生の傍ら歩かなかった生徒は、授業中もこんな脇道にばかり気を取られていた。

二十七年春の頃、私は十八才の誕生日を迎えた。夕闇の迫る頃であった。当時、教室で机を並べていたMさんが、突然訪って来て下さった。校庭の周りにめぐらされた並木が正門に続く壁に沿って斜に見通される家の近くの街角でMさんは「お誕生日おめでとう」と、与謝野晶子詩歌集と、白いマーガレットの花を差し出した。本の扉には一絢子さんへー、晶子の歌が一首選ばれてあった。

劫初より　つくりいとなむ　殿堂に　われも黄金の　釘一つ打つ

自負に満ち、創造の情熱に富む晶子の歌は、私には淋しく遠く美しく感じられた。然しまた、小さき者の誕生の記念日にそれを鼓舞するに相応しく、私は私なりの「黄金の釘一つ」を「打ち」たいものだと思ったことであった。輝く瞳を持ったMさんは、きっと此の歌の様な意気を持っていられたに違いない。

晶子の歌は、光太郎らと共に今も身近において愛誦している。

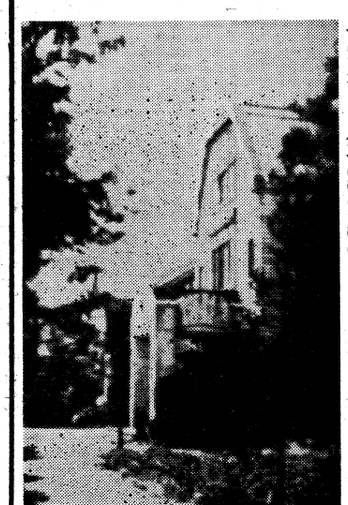
以上は、胸裡に浮かび来る俚を記した思い出の幾片かである。

土

佐高卒業の頃は、自分の学生々活に、総じて多くの悔を痛感していたので、感涙にむせびながら答辞を朗読した友の心中と私のそれは、いくばくか違いものであった。修道女的なあまりに修道女的な数ケ年であったと云う印象。

しかし中学・高校時代はその半ばがもう一昔前になろうとしている。今、想い出す一カット一カットの面影は懐かしい。

衣は新しきに如かず、人は故きに如かず、と詠じた中国古代の詩人の心も、一入深くしのばれるのである。



プールと胸像だけが焼け残る

（三根校長の）

創立以来の四十年をふりかえってみると、その中で大きな痛手を受けた一つに、太平洋戦争による校舎焼失があったが、当時即ち昭和二十年七月四日夜、宿直をしておられた吉本要先生（数学担当）と前置して、「その晩本校には、私と、大嶋校長、当時の会計の宮田という人と、四人位の先生が警戒のためにいた。すると、七時から八時頃、警戒警報が出たので、気をつけていると、繁華街のあたりや家に火が移りそうなので公園に爆弾が落ちだした。しかし潮江地区には全然落ちないので、これ海で、自分の家の最後は、見とどけたけれど、本校は、火と煙で全然わからなかった。翌朝、やっとの思いで、本校につくと、もう焼け野原で、今あるプール、三根校長の胸像、もうなくなったが、新館理科室付近にあった便所が半分と、鉄棒だけが残っていた」と語られた。【写真の上は戦災後、下は戦災前の校舎】

に、その模様をお聞きした。

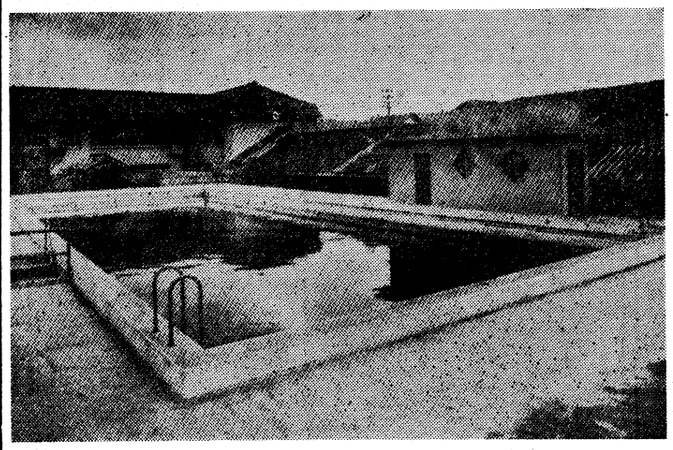
「はっきりとは覚えていないが」と前置して、「その晩本校には、太平洋戦争による校舎焼失があったが、当時即ち昭和二十年七月四日夜、宿直をしておられた吉本要先生（数学担当）と前置して、「その晩本校には、私と、大嶋校長、当時の会計の宮田という人と、四人位の先生が警戒のためにいた。すると、七時から八時頃、警戒警報が出たので、気をつけていると、繁華街のあたりや家に火が移りそうなので公園に爆弾が落ちだした。しかし潮江地区には全然落ちないので、これ海で、自分の家の最後は、見とどけたけれど、本校は、火と煙で全然わからなかった。翌朝、やっとの思いで、本校につくと、もう焼け野原で、今あるプール、三根校長の胸像、もうなくなったが、新館理科室付近にあった便所が半分と、鉄棒だけが残っていた」と語られた。【写真の上は戦災後、下は戦災前の校舎】

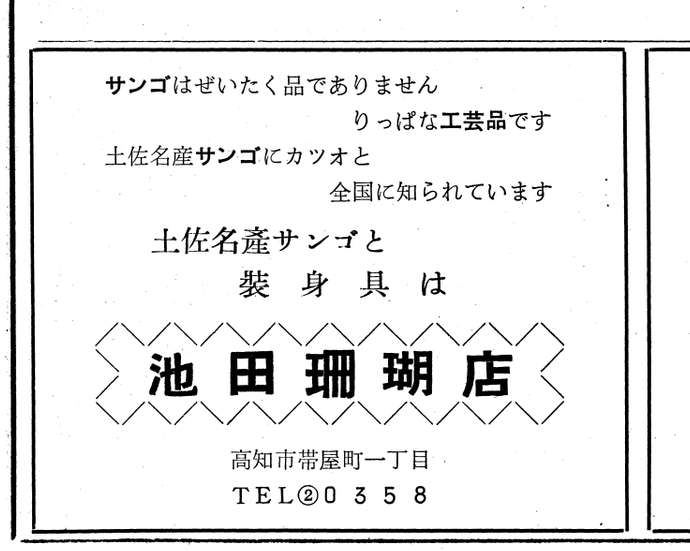
昔をしのばすプールと三根先生像

本校も、戦前、戦後にわたって、こゝに四十周年を迎えたわけだが、現在残っている戦前の面影というものは、ほとんどが壊れたり崩れたりして、たゞ、玄関の築山にある初代校長、三根円次郎先生のうきぼりとは当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないのであきらめて、曲り曲って家についたが、はたして家に火が移りそうなので公園に登った。その時高知は、もう火の地区には全然落ちないので、これは大丈夫と思っていた。と急に、家の事が心配になったので（先生は当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないのであきらめて、曲り曲って家についたが、はたして家に火が移りそうなので公園に登った。その時高知は、もう火の地区には全然落ちないので、これは大丈夫と思っていた。と急に、家の事が心配になったので（先生は当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないの

昔をしのばすプールと三根先生像

本校も、戦前、戦後にわたって、こゝに四十周年を迎えたわけだが、現在残っている戦前の面影というものは、ほとんどが壊れたり崩れたりして、たゞ、玄関の築山にある初代校長、三根円次郎先生のうきぼりとは当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないのであきらめて、曲り曲って家についたが、はたして家に火が移りそうなので公園に登った。その時高知は、もう火の地区には全然落ちないので、これは大丈夫と思っていた。と急に、家の事が心配になったので（先生は当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないのであきらめて、曲り曲って家についたが、はたして家に火が移りそうなので公園に登った。その時高知は、もう火の地区には全然落ちないので、これは大丈夫と思っていた。と急に、家の事が心配になったので（先生は当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないのであきらめて、曲り曲って家についたが、はたして家に火が移りそうなので公園に登った。その時高知は、もう火の地区には全然落ちないので、これは大丈夫と思っていた。と急に、家の事が心配になったので（先生は当時高知市内におられた）校長の許可を得て家に帰った。その途中、天神橋へ来た時、潮江に爆弾が落ちてきたから、もう無我夢中で橋をわたった。その頃から本校も燃え出したらしく、もう一面の火の海であった。急いで大橋通りへ出たが、もう先へはいけないの





昔の「筆山の云々…」は諸君のすでに知る？ところである。（写真と三根先生の胸像）

は建設間もなかった戦前のプール

サンゴはぜいたく品でありません
りっぱな工芸品です
土佐名産サンゴにカツオと
全国に知られています
土佐名産サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目
TEL②0358

通学◇おしゃれは？
学生服から
通勤・行楽◇おしゃれは？
スポーツウエア
紳士服から!!
男子専科
クニサワ
オビヤ町東宝東隣

御赤飯
御祝餅
御饅頭
老舗中納言力餅
高知市大橋通り電話2-0573番